

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT

2007 VOL.4

contents

極 研究&教育
Current topics in research and education

人 時の人
People in the news

技 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

OPEN COLLEGE

オープンカレッジ展開中!

医学研究科が主体となるオープンカレッジは、平成17年に始まり3年目となりました。単発の講演会形式である市民公開講座とは異なり、オープンカレッジでは一つのテーマについて連続8コマ（以前は12コマ）を設け、それぞれの講師陣が最新の医学情報を分かりやすく市民の皆様へ提供することを目標にしております。

オープンカレッジ企画委員会で、テーマの内容やコーディネーターの候補を決め、コーディネーターの先生は講師陣の選定や日程調整を行ない、それに基づき市内に広く受講生を募っています。

これまでに15科目が開講されています（10月現在）。講師は主に医学研究科教員ですが、他研究科、外部の研究機関・診療機関などからも招いてきました。平日の夜間に開講され、受講は有料、しかも内容のやさしいものばかりではないのですが、多くの熱心な受講生があり、とくに薬剤師や管理栄養士、学校教員など有職者も増えています。

大半の部分が医学研究科の先生方のボランティアに負っており、今後継続して行くうえでの課題といえるでしょう。

いずれにしても、名市大の存在意義である地域社会への貢献の大きな柱であり、医学研究科の特色の一つになりつつあります。



写真:上:今年度第2期「薬と健康」消化器・代謝内科学(講師) 今枝 憲郎 講師と、
右:「ライフサイクルとメンタルヘルス」精神・認知・行動医学(病院講師) 竹内 浩 講師の講義の様子。

熱心にメモを取る受講生。質問も活発です。いずれの講義もスライドとテキストとわかりやすい構成になっています。



■これまでに開講したオープンカレッジ科目

開講年度	科目名	期間	回数	受講者数
平成17年度	環境と発がん・がん予防	7/13~10/19	12回	66名
	脳とところを元気に一脳の活性化と環境—生活習慣病の怖さ	7/15~10/21	12回	128名
	日常生活とアレルギー:その予防と対策	11/2~2/15	12回	79名
	漢方医学・医療を学ぶ	11/10~2/9	12回	46名
各科目50名募集				
平成18年度	環境と脳、その障害と機能活性化	6/9~7/28	8回	125名
	感染症は身近に	6/14~8/2	8回	45名
	病気の自然史—医療における男と女の違い	9/8~10/27	8回	53名
	最先端の癌治療について学ぶ	9/13~11/1	8回	94名
	遺伝子医療	11/15~1/17	8回	86名
各科目80名募集				
平成19年度	知っておきたい消化器病の基礎と臨床	11/17~1/19	8回	94名
	光を用いた最先端医療に挑む	6/1~7/20	8回	39名
	メタボリック症候群と周辺疾患	6/6~7/25	8回	114名
各科目80名募集				
	薬と健康	9/5~10/24	8回	54名
	ライフサイクルとメンタルヘルス	9/14~11/9	8回	71名

研究者紹介



Mitsuru Futakuchi

二口 充 (ふたぐち みつる) 実験病態病理学(第1病理) 講師

専門:腫瘍病理学(テーマ:前立腺癌の造骨性・溶骨性機構の解明とそれに立脚した治療法開発)

治療抵抗性の前立腺癌の造骨性・溶骨性骨転移がなぜ形成されるのか?を、自らが開発した動物モデルを用いて研究を展開。原発巣と大きく異なる骨微小環境に見事に適応する腫瘍細胞のタフさが、自分にも欲しいと思っている。

近年の論文:Cancer Gene Ther. 14: 364-371 (2007)、Prostate 66: 718-727 (2006)、Cancer Cell 7: 485-496 (2005)

大原 弘隆 (おおはら ひろたか) 消化器・代謝内科学(肝臓内科) 講師

専門:消化器内科(テーマ:消化器病、特に膵胆道系疾患の診断と治療)



Hiroataka Ohara

衝撃波破碎装置と内視鏡を用いた新たな膵石症の治療体系の確立、超音波内視鏡による慢性膵炎の早期診断の試み、自己免疫性膵炎とその全身合併症の病態解明などを主なテーマにして活動中。

近年の論文:J Gastroenterol. 42:15-21 (2007)、Pancreas. 32: 115-117 (2006)、Pancreas. 31: 232-237 (2005)

趣味:剣道、テニス、映画鑑賞

関連病院



▲はだか祭りで病院前に集う男衆

▼病院外観



地域を守る病院!厚生連尾西病院

Q 病院の特色は?

愛知県厚生連尾西病院は稲沢市の西部、木曾川沿いに位置し、平成14年4月に新病院が完成しました。急性期医療から慢性期医療、精神科、療養型病床を有し、介護事業に至るまで幅広い機能を有しており、地域の皆様方に安全・安心な医療を提供し選んでいただける病院を目指し実績を挙げております。医療・

保険・福祉の充実地域の皆様方にとって安心して生活して頂くために必須の条件であり、尾西病院職員一同は地域医療を守るため、日夜に亘り、たゆまぬ努力を続けております。

Q 教育・研修病院としての取り組み?

基本コンセプトは、①研修医に責任を負わせない(時間外も含め、1年次研修医の診察に上級医が同席。2年次研修医が診察したカルテを全例上級医が確認)。②時間内は積極的に実際の手技を体験(例えば、現在2年目の研修医は上部消化管内視鏡検査を昨年約150例実施し、本年は大腸内視鏡も研修中)の2つです。

オフタイムは職員旅行(本年は上海等)、釣りクラブで大物をゲット!野球部で厚生連大会の優勝を目指す!……など他職種との親交があります。

詳しくは実際に体験してください。学生研修、病院見学も募集中。ぜひ来院を!

(取材:脳神経生理学 飛田 秀樹)

学部教育

緊急特集!医学教育 新カリキュラムについて—その1

現在、医学部教育 新カリキュラムが検討されています。7月31日には、「『人を育てる』第4回医学教育フォーラム2007」を開催、教員、学生が多数参加し、新カリキュラムについて活発な討論が行われました。医学・医療教育学分野の早野順一郎教授にお話を伺いました。

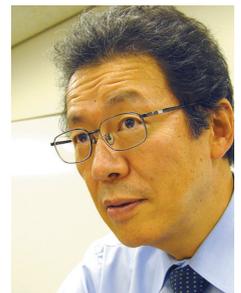
Q 新カリキュラムの特徴は?

このカリキュラムはその特徴からoutcome competence-based spiral curriculumと呼ばれています。outcome competenceとは、6年間の教育の結果として「卒業時に習得しているべき能力」です。新カリキュラムでは、習得すべき能力を21項目にまとめ、それらを「科学としての医学」、「医療の安全と技能」、「社会と医学」、「医師としての姿勢と素養」の4領域に分類しました。一方、spiral curriculumというのは4領域をらせん階段状に巡りながら、それぞれの到達目標に向かって、全領域をバランス良くレベルアップするカリキュラム構造を意味します。

Q 新しいカリキュラムにはどんな効果が期待されますか?

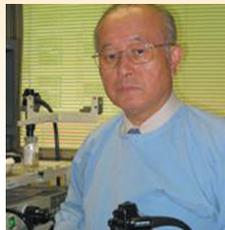
全ての学習項目が到達能力の領域に分類されているために、学生は各科目の意義や目標をはっきりと意識しながら学習を進めることができます。さらに、従来行っていた、知識を学んでから、技能を学び、そして実践現場を経験して応用を学ぶという方法ではなく、spiral構造によって、知識、技能、実践経験、応用の全てを、入学時から満遍なく学ぶことで、将来への展望や医学生としての使命感を強く感じながら学習に臨むことができると思います。

(次号では「教養教育改革」について島田教授にお伺いします)



早野 順一郎 教授
医学・医療教育学

OB 訪問



水野 宏氏

昭和39年卒、名古屋市第二内科、愛知県がんセンター・シカゴ大、愛知医大をへて、今地で開業。年間4000例の内視鏡検査実施。25年間、月一回の名古屋文化サロンを開催。エッセイ・健康小説を出版。

臨床経験豊富な 非常勤講師

Q 診療のモットーは？

謙虚さを常に忘れず、誰にも誠意を持って臨むこと。検査が必要であればできる限り迅速に行い結果を十分説明すること。後方病院との連携を密にすること。医療のみの殻に閉じこもらず、学会、医師会、同窓会などにも積極的参加。クリニック(GIホール)を一般市民に開放し、文化活動にも力を入れる。

74年から75年にかけてアメリカの臨床医学を体験したことは有意義でした、と語る。

(取材:脳神経生理学 飛田 秀樹)



青木 耕治氏

昭和52年卒、名古屋市立城西病院産婦人科第一部長
習慣流産の生殖免疫学的解明
http://www.dr-aoki.com/sanka/sanka_aoki01.htm

時代をリードする 産婦人科医

「まるでドンキホーテとサンチョパンサのようね。」青木氏を語る時、誰もがそう言う。80年代の夫リンパ球免疫療法、90年代の抗リン脂質抗体症候群による病態解明。習慣流産や不育症という概念をいち早く日本に紹介し世界の生殖免疫学をリードした青木氏とともに、多くの研究者は夢を果たし、夢に殉じ、ある者は未だ夢の途中にいる。21世紀に入ると後進に道を譲り自らを封印しているかのように見える青木氏。あなたはいったいどこへ行こうとしているのか。オマージュにはまだ早すぎる。期待通りに期待を裏切る。常に時代の一步先にいる、青木氏のその動向から目が離せない。

(文責:産科婦人科学 尾崎 康彦)

新分野発足! 新任教授に聞きました

関節再建医学

井口 普敬教授(4月1日就任)

Q 新分野をご紹介下さい

先天異常、外傷、老化などにより関節は様々にその機能を低下させたり失ったりしていきます。これまでも多くの施設で、人工関節置換術、骨ぎり術、関節形成術、靭帯形成術などを行ってその機能を再獲得するための努力が行われてきました。これを関節再建医学と呼びます。当講座ではさらにそれを進めて、症例毎のCTデータをもとに、障害関節だけではなく、たとえば股関節であっても下肢全体の3次元CADデータを作成し、それらの相互関係の中からもっとも適切な治療方法を見出して、関節機能の再建を行っています。

Q 今後の抱負をお願いします

これまでの治療は、2次元データであるX-rayや、一見3次元に見える2次元の画像に過ぎない3DCTに基づいて行っていました。しかし、3次元CAD技術やその他のコンピューター技術を用いて、生体要素相互の3次元関係や治療材料との3次元関係データを正確に把握することができるようになってきました。これを用いた治療をより多くの患者様に行うこと、新しい治療材料の開発をすすめていくこと、そしてこの新しい技術を身につけた医師をより多く養成していくことに努力していきたいと思っております。



麻酔・危機管理医学

祖父江 和哉教授(9月1日就任)

Q あらためてご自身の分野をご紹介下さい

手術中に安全で質の高い麻酔を提供すべく、臨床・教育・研究を行っています。また、麻酔学の疼痛調節技術や全身管理技術を応用し、疼痛治療学・集中治療学・救急医学についても良質な医療を提供できるよう努めております。

Q 今後の抱負をお願いします

安全な麻酔・集中治療・疼痛治療を提供することは当然であり、加えて臨床から着想した基礎的・臨床的研究にもより力を入れていきたいと考えております。これから名古屋市立大学の皆様のお力をお借りしながら、特色ある教室を目指したいと思っております。今後ともご指導いただきますようお願い申し上げます。



開設10年目を迎える蝶ヶ岳ボランティア診療所に表彰! —



1998/8/1開設時の記念写真



2007/8/1 山頂へ到着した安曇野赤十字病院のメンバーと診療班

今年度は、部員62名と医師・看護師ら総勢約100名が交代で活動。節目の今年、松本警察署から表彰を受けました。設立時を知る運営委員長の三浦裕准教授(分子神経生物学)にうかがいました。

Q 主な活動内容は?

蝶ヶ岳ボランティア診療所は中部山岳国立公園の蝶ヶ岳山頂(標高2677m)の大展望を臨む場所に位置し、今年は160名を越す患者さんが訪れました。状況によっては、我々診療班も点滴や酸素ボンベを担いで遭難現場に急行して救助活動をし、診療室ではつきっきりで看病します。登山客のために学生が中心となって血圧、酸素飽和度測定を実施し、深呼吸法や水分摂取法の指導など安全登山の啓蒙と自然保護活動をしています。

Q 10年を振り返って。また、続けてきた理由は?

微々たる10年です。10年前に見たキヌガサソウは、同じ場所に同じ時期に同じように美しく咲いています。しかし、関係した人間の顔を見ると、確実に成長・成熟・老化した変化を感じます。続いたのは、元本学教授太田先生の心からの支援、苦楽を分かち合った教員・学生の笑顔、患者さんからの感謝の言葉...それらに支えられ、変わらぬ自然の美しさに今も新鮮な感動を覚えるからでしょう。

Q 学生スタッフの様子は?また、今後の目標は?

学生には、今時の若者は...という苦言とは無縁の、心から自然を愛し、活動を通じ社会貢献しようという誠実さを感じます。今後とも、人間界を超越する大自然をそのまま受け入れ、このまま参加者の主体性・公共性・無報酬性を貫いていきたいと考えています。



▲2007/3/2 松本警察署からの感謝状

最新の医療を支えた桜山の砦 旧病院へのレクイエム

新外来棟の完成で5月にフルオープンした名市大病院。
その一方でこれまで沢山の医師・看護師を育ててきた旧病院が
姿を消す「最新医療」、番外編!!



今、その歴史に幕を降ろそうとしている。
「お疲れ様でした。おやすみなさい。」
(2007年 永坂カメラ提供)

「お父さんの後輩になれるといいね。」悪戯が終わる頃、最終電車は既になかった。友人の母親は彼を車に乗せて深夜の瑞穂通りを今池から南へ下った。その頃の彼はといえば人生の目標も見えないままに、そんな無為な毎日を繰り返していた。やがて左手に現れる暗闇に浮かぶその建物は、まるで工場か発電所のように見えた。その頃の彼にはそこがどこだろうとそんなことはどうでもよかった。

それから約10年が過ぎ、彼は運良く裏口からそとの中に忍び込んだ。それは噂通りに温かく彼を迎えてくれた。そして彼は心地よくそれに甘え、何気ない顔で約20年の歳月をそこで過ごした。

何をしたわけでもなく、何もなかったわけでもなかった。

昭和から平成へ。多くの同窓の先輩方が患者様の命と健康を守るために最新の医療と共に病と戦った桜山の砦。出会いと別れ。喪失と再生の物語が繰り返された旧名市大病院(外来棟・病棟)は、今その姿を消そうとしている。

「遂に仲間になれそうだ。」一時的に戻った意識の中で息子の採用の知らせを聞いた病床の父は少しだけ嬉しそうに、安堵したかのように見えた。新外来棟の1階には自分とよく似た父の名前を刻めば良かったと後悔した彼は、今年瑞友会の会員にもなれた。

「お前はよそ者なのだから決して目立つな。」彼の父は草葉の陰で、今もそう言うのだろうか。

(レクイエム提供:Mr.X)

大学院医学研究科修士課程ができます。 ただ今申請中。

医学研究科は平成18年の教授会において医学研究科修士課程医科学専攻(募集定員10名)の設置を決定し、平成20年4月開設に向けて準備を進めて参りました。本年6月に文部科学省宛に修士課程の設置申請書を提出し、9月には大学院設置審査委員会から設置に向けた前向きな評価をいただき、現在開設に向けた具体的な作業を行っております。修士課程は医学部卒業生以外の学生を対象に募集されるもので、本課程の設置は医学研究科における基礎研究の活性化と、学際的知識を持った人材の育成という大きな目標達成には必要不可欠なものと位置づけております。本課程の特徴は、薬学研究科の協力を得て、医・薬連携による幅広い知識を持つ研究者、専門的職業人の育成を目指すもので、全国的にも新しい試みです。医科・薬科の基礎研究者不足が指摘されるなか、本修士課程修了生が世界で活躍する人材となることを希望しております。

(文責:細胞生化学 教授 中西 真)

【授業科目等概要はコチラ】▶ <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/master/index.html>
【お問合せ】▶ igaku-daigakuin@sec.nagoya-cu.ac.jp

ひとつこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!ご無沙汰している同級生に、恩師に・・・ワイワイ楽しいお便りお待ちしております。ほっと和む「名市大人のつづきやきコーナー」をみなさんと作りたいと思います。

例えばこんな一言を、

- * 研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
 - * ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」
 - * 新米医師のつづきやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」
- などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は2月号です)
- 1.一言メッセージ(30字以内) 2.卒業年度 3.お名前(ふりがな) *匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。*4.住所 5.電話番号またはmailアドレス

《受付》〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 E-mail:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp
名古屋市立大学医学部広報誌「一言メッセージ」係宛

お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません

広報誌:瑞 医(ずい)

発行:名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL (052) 853-8077 FAX (052) 842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp>

※次号の発行は平成20年2月下旬発行予定です。[年3回 2月・6月・10月]

☒
我こそは
通信員!

広報誌「瑞医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp または医学部事務室 佐々木まで